

2011 年 4 月 5 日(火)

午前 9:00 ~ 9:10

CRT 両毛支局(足利市)にて収録

学校から教科書を頂いたら
- 教科書の予習を徹底的に行おう -

開倫塾

塾長 林 明夫

1. 予習とは、わからないところを予(あらかじめ)め明確にして授業に臨むために行うもの

(1)まず教科書をよく読む。

(2)読めない語句の読み方を知る・調べる。

漢和辞典 仮名をふる(教科書になら鉛筆で、できればノートに)

英和辞典 片仮名よりは「発音記号」(単語ノートに)

(3)よく意味のわからない語句の意味を調べる。

国語辞典

英和辞典

各科目の学年別参考書 辞書代わりに用いる

* 辞書や参考書で調べたことは科目別の「語句ノート」、「単語ノート」(英語)に書き写す。

(4)語句の意味がわかったら、教科書を音読する(大きな声で何回も読む)。

(5)数学や理科、英語などの科目で計算や練習問題があったら、問題も書き写してノートにやってみる。

(6)大事と思われるところを、「語句ノート」とは別にノートにまとめる。重要事項を書き写したサブノートをつくる。

(7)また、教科書を何回か音読する、大きな声で読む。

(8)ここまでやってから、よくわからないことは何かを考えて明確にし、教科書やノートによくわからないところを書き記(しる)す、つまり、書いて記録する。

(9)授業に出席して、よくわからないところを中心に先生の授業を聞き、「うんなるほど」とよくわかる、よく「理解」する。

* 授業に出る前に、できるだけ自分で勉強して、よくわからないところをはっきりさせる。これが予習の意味。

2. おわりに

(1)予習をしているときに、辞書や学年別参考書で語句の意味を調べたら必ず科目別の「語句ノート」、英語なら「単語帳」に記録すること。記録したことはその場で覚えること。覚えるとは「意味を正確に言えるようにする」こと(そのために「音読練習」をすること)が第一。その語句自体と、語句の意味を「正確に書けるまでにする」こと(そのために「書き取り練習」をすること)が第二。簡単な計算や問題は「問題を見た瞬間にパツパツと正解が出るまでにする」こと(そのために「計算・問題練習」をすること)が第三。ここまでやってから授業に出れば、授業が100%「理解」できる。新しい内容を授業のその場で深く「理解」することができる。

(2)中世、足利学校には3千名の「学僧」(学問のある僧、修業中の僧)が集い、学んだと言われている。その中には、自分でわからないことがあって足利学校まで日本各地から徒歩でやって来て勉強をし、わからないことが「理解」できると1日で帰っていった学僧もいれば、近くで農業を手伝いながら一生学び続けた学僧もいたと伝えられる。学問、勉強とは自分でよくわからないことを「理解」するために行うもの。学校の勉強でも、何がわからないかを授業の前に自分ではっきりさせることが大事。

予習をすることができるのも大事な能力。

2011年4月5日記